



TITLE:

京大広報 No. 147

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 147. 京大広報 1977, 147: 698-701

ISSUE DATE:

1977-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209543>

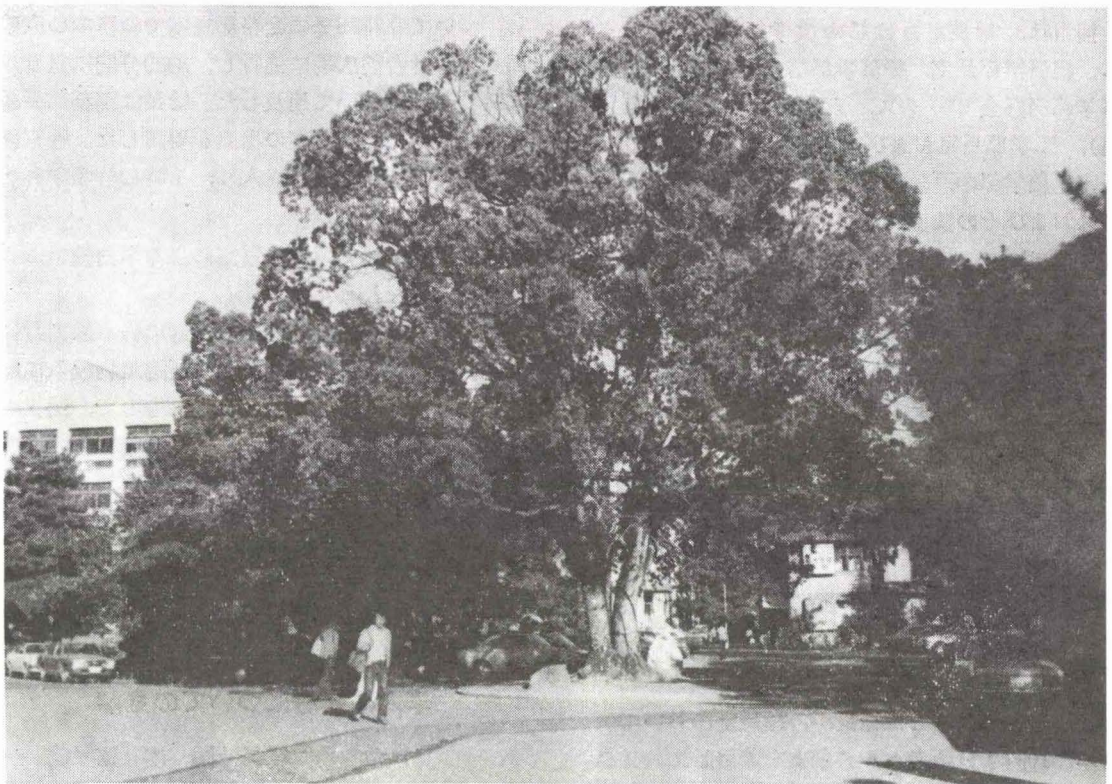
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 147

京都大学広報委員会



風雪に耐え本学の姿を眺め続けてきたくすのき
(関連記事本文4ページ〈随想〉)

目 次

10月13日の捜査について……………2	〈紹 介〉
10月25日の事態について……………2	教養部人文地理学研究室……………3
学内の事態についての見解	〈随 想〉
総長 岡 本 道 雄……………2	京都大学構内の木
総長選考の実施予定……………3	名誉教授 北 村 四 郎……………4

＜大学の動き＞

10月13日の捜査について

さる10月13日（木）、京都府警察本部による学内捜索および差押が行なわれた。

この日の捜索は、9月20日（火）に教養部構内で起った暴力行為に係る兇器準備集合および暴力行為等処罰に関する法律違反、ならびに10月1日（土）に東一条交差点附近路上で起った往来妨害の各被疑事件について突然行なわれたもので、関係の各部局長等が立会人となり、午前7時頃から始まり、同8時25分頃までに終了した。

捜索は、総長室をはじめ文学部学友会ボックス、経済学部長室、経済学部橋本教授研究室、経済学部同好会ボックス、理学部学生控室（無所属）、工学部長室および同応接室、工学部事務部長室、農学部中戸教授研究室、農学部自治会ボックスおよびその隣室、教養部尚賢館、西部構内の同学会ボックスの12か所についてなされ、ピラ類、ヘルメット、石油（灯油）かん、竹竿等が押収された。

なお、今回の捜査に関して、学生の立会等について一部に問題があったので、学生部長はこれらの点について従来の慣行の励行を警察に強く申入れるとともに、各部局に対しても注意を喚起した。

10月25日の事態について

さる10月25日（火）、本学において起った一連の事態は、おおむね次のとおりである。

(1) 午前10時登学した総長が、総長室において執務中、10時4分頃赤ヘルメットを着用した約10名の集団が総長室に押しかけ、扉を破壊して室内に乱入し、総長を室外へ連行しようとして暴力的行為に及んだ。このため総長は、警察の出動を要請した。

10時11分頃、警官隊が学内に立入ったが、上記約10名の集団はその直前に退去し、警察による総長室およびその周辺の現場検証が行なわれ、10時45分頃終了した。

なお、同日早朝、次の掲示が出された。

（本部一階東階段下）

立入禁止

関係者以外二階への立入を禁ずる。

京都大学総長

（本部二階廊下）

総長室、事務局長室に御用の方は、必ず秘書室に申し出て下さい。

次の行為を禁じます。

1. 許可なく総長室又は事務局長室に立ち入ること。
2. 廊下等に座り込むこと。

京都大学総長

(2) 午後0時30分頃赤ヘルメットを着用した約10名の集団が総長室および事務局長室の扉を破壊し、ついで0時35分頃庶務部長室で執務中の庶務部長を時計台前広場に連行し、約20分間に亘り、同日の事態について追及した。総長は庶務部長救出のためふたたび警察の出動を要請した。警官隊は、0時55分頃学内に立入り、1時12分頃学外へ引き上げた。

(3) 同夜8時20分頃から警察による学内捜索および差押が行なわれた。

この捜索は、同日午前中の事態に係る暴力行為等処罰に関する法律違反、および建造物侵入に関する被疑事件について行なわれたもので、関係の各部局長等が立会人となり、午後9時30分頃までに終了した。

捜索は、文学部学友会ボックスおよび工作室、経済学部長室、経済学部同好会ボックス、工学部長室および応接室、工学部事務部長室の5か所についてなされ、ピラ類等が押収された。

学内の事態についての見解

総長 岡 本 道 雄

最近の学内の事態については、さきに「総長所感第四」で詳細に説明したところでありますが、ここに10月25日の事態に関連して、改めて見解を述べたいと思います。

6月18日竹本信弘氏の分限免職処分審査の結審以来、一部の学生は評議会におけるこの結論が自分達の意見に反するものであったことへの報復と称して、研究室等施設の占拠と破壊を行なうほか、各部局の評議員を放逐と称して校門から連れ出し、さらには多くの授業の妨害を行なっています。このため多くの評議員は学内に入ることが出

来ない状況にあります。

また、7月1日より教官有志は総長室前の廊下に座り込みを続け、また一部学生も、その支援および総長の帰学阻止と称し、総長室に座り込みを続けていました。総長は、教官有志に対して座り込みを解くよう説得を続けてきましたが、教官有志はこれに応じることなく、今日に至りました。

「総長所感第四」でも表明しましたように、処分審査結審以降の学内における上述のごとき状況は、明らかに教育・研究の障害であり、本学の責任者として、秩序の回復と教育・研究の十分な遂行のため、重大な決意をもって当たらなければならないと考えます。

総長選考の実施予定

現総長の任期満了に伴う後任総長の選考については、10月11日に開催された評議会において、次のとおり実施することが決定された。

選挙施行日は、第1次投票を11月19日（土）、

10月25日、このような考えのもとに、執務のため登学して総長室に入ったところ、一部学生が総長室に乱入し、別項「10月25日の事態について」の(1)に記載されているような事態が発生したことは誠に遺憾であります。外部の力を導入しなければならなかったことは誠に残念であります。現在の状況をこのままに放置することは許されないと考えたのであります。研究と教育の場である大学の秩序はあくまで守られなければなりません。

私としましては、今後とも変らざる考えと決意のもとに事態に対処して行くつもりであります。ここに卒直に私の見解を述べて、学内の理解と協力を望む次第であります。

第2次投票以降を20日（日）に行なう。郵便による投票の受理期間は、11月14日（月）9時から19日（土）正午までとする。

なお、具体的な実施細目については、10月29日（土）に選挙通告によって選挙資格者に通知された。

< 紹 介 >

教養部人文地理学研究室

教養部は講座制ではないが、昭和24年9月の発足当初から教科毎の教室制がとられてきた。人文地理学教室は初め社会学教室と同居し、掛図等を置く準備室は地学教室との同居であったが、25年4月には教授、助教授、助手が各1名となって研究室も独立した。以来28年目の現在では教授2、助教授1、助手1、事務補佐員1の人員を擁し、研究室4、実習・実験室1、掛図標本室1の6室を有する。

地理学は京大を主とする西日本の諸大学では文学部史学科に所属するのに対し、東日本の諸大学では多く理学部に所属する。しかし一般教育科目としては社会・人文系列の実験科目になっている。京大文学部の地理学は日本ではその誕生が古いにもかかわらず講座が少ないため、当研究室の教官は開設以来、学部および大学院の学内非常勤講師または授業担当として今日に至っている。従って文学部地理学教室との交流は極めて頻繁であ

り、また地理学専攻の学生との関係は一回生入学以来の緊密さである。さらに、当研究室は平均1年1人の割合で研修員を受け入れてきており、中には京都の都市地理学の専攻を希望した外人教授もあった。

教養部自体としての授業には、一般教養としての人文地理学Ⅰが当初から開講されているほか、教養・専門両科目になる地理学および地誌が基礎科目の人文地理学Ⅱ、Ⅲの名で講義されており、Ⅲの内訳は日本地誌と世界地誌である。ほかに実験・実習の人文地理学Ⅳおよび人文地理学ゼミナールがあり、各学部のいわゆる地理好きの学生が参集しているのは京大教養部の特色であろう。人文地理学Ⅰは大教室を使用し、スライド設備を活用して、毎年1回200人の受講生をもつことが多い。

このほか当研究室の教官の活動としては、教養部の史学、芸術学、図学、地学などの教官と共に学生部主催の臨地講演の講師として京都周辺のバス旅行に参加することを毎年の通例としているし、また本年10周年を迎える教養部独自の宿泊研

